科目ナンバリング	U-LAS30 10033 SJ11						
授業科目名 <英訳>	情報AI基礎演習［工学部］（電気電子工学科） Practice in Basics of Informatics and AI (Faculty of Engineering) [Electrical and Electronic Engineering]			担当者所属職名・氏名	エネルギー理工学研究所 教授 松田 一成 情報学研究科 准教授 島﨑 秀昭 情報学研究科 講師 川原 僚		
群	情報学科目群	分野(分類)	(基礎)			使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	2コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水4・5	配当学年	主として1回生	対象学生	理系向

[授業の概要・目的]

UNIX系OS, ターミナルの利用方法，LaTeXを用いた文書作成方法を学び，数値解析向けプログラミング言語 Octave を用いた演習を行う．情報処理，論文執筆の基礎を習得し，大学生活においてコンピュータを活用するためのAI・情報リテラシー教育を行う．

[到達目標]

UNIX系OS に関する基本的事項を理解し，ターミナルコマンドを通して処理を体験することにより，現代社会のインフラとなる計算機技術の設計思想を理解する．Emacs や LaTeXによる文書作成技術を習得し，図・表を含む報告書の作成や論文執筆のための基礎を身につける．数値解析プログラミングの基礎を習得する．

[授業計画と内容]

授業回数は全15回とする.

1. UNIX の概説 及び 情報リテラシー (2回)
UNIX系OSの基礎概念と利用方法 及び 情報リテラシーについて習得する．

2. UNIX 操作，ターミナルの基礎(2回)
ファイルシステム，コマンド・シェル等の操作演習を行う．

3. Emacs系エディタ(2回)
Emacs 系エディタの基本操作習得および文字入力の演習を行う．

4. LaTeX(2回)
LaTeXを用いた文書作成法の基礎を習得する．

5. 図・グラフ作成と数値計算(2回)
Octave等を用いた図・グラフ作成法と数値計算，LaTeXにおける利用法を習得する．

6. 総合課題演習(4回)
応用課題に取り組むことによって，本演習で習得した技術の理解と応用力を深める.

7. フィードバック・AI教育(1回)

情報AI基礎演習［工学部］（電気電子工学科）(2)へ続く↓↓↓

情報AI基礎演習［工学部］ （電気電子工学科）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

小レポート 60点，総合課題 40点 により評価する．レポートではUNIX系OSの知識, コマンドとシェル, Emacs, LaTeX, Octave に関する課題達成状況を評価する．総合課題では，LaTeXによるレポート文書作成 及び Octave の習熟度合いを評価する．

[教科書]

『情報基礎演習』 (京都大学生協) (生協で販売している．第1回の出席時に持参すること．)

[授業外学修（予習・復習）等]

演習時間中に終了しなかったレポート課題は，仮想端末や各自の端末において完了させて提出すること．UNIXコマンド, Emacs, LaTeX, Octave等 演習で学ぶ技術の利用方法について教科書を読むのみならず Web検索 によって調べておくのが望ましい．

[その他（オフィスアワー等）]

注意1. 後期水曜4, 5限に隔週で開講。同じく後期水曜4, 5限開講の学部科目「電気電子工学概論」と合わせて両方の受講登録が可能。
注意2. 演習で「各自のノートPC」と「教科書」を使用するので初回から持参すること。
注意3. 事務室からの通知あるいは掲示板で自身のクラスと開講日を確認し、該当するクラスのみを受講登録すること。
注意4. シラバスシステムの都合で「水曜5限」と表示されることがあるが、正しくは水曜4,5限である。

情報環境機構が提供する情報セキュリティe-Learningを必ず受講し、修了テストを受けた上で、同テストのフィードバックを確認しておくこと。授業内では受講のための時間は設けないので授業時間外に受講しておくこと。同e-Learningは学生も含めた本学の全構成員に対して毎年受講が求められているものである。2回生以上で過去の年度に受講した場合でも今年度まだ受講していないのであれば必ず受講すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]